◎理事會

七月十三日正午より丸ノ内日本倶樂部に於て理事會を開催し水野會長、橋本副會長及廣瀬、山田、後宮、中川（正左）、中川（吉造）、牧、筧の各理事竝新居幹事外七幹事出席した、昭和九年度事務報告、同年度會計報告を附議し異議なく之を承認し次に昭和十年度一般會計及特別會計の歳入出豫算を審議し原案通可決した。

◎評議員會竝定時會員總會

本會評議員會竝第十六回定期會員總會は七月十七日午後二時丸ノ内日本倶樂部に於て開催した、定刻に至り水野會長議長席に就き「慣例に依り評議員會と會員總會は之を併合し開會する旨を宣して會議を開き昭和九年度事務報告、昭和九年度一般會計及特別會計報告を承認し次て昭和十年度一般會計歳入出豫算及特別會計歳入出豫算を承認した。議長は附議事項を全部終了したるを以て散會を宣し散會した。

昭和九年度事務報告は次の通である。

昭和九年度事務報告

昭和九年度事務の概況左の如し。

道路職員講習會開催の件

昭和九年七月三十日より一週間第八回道路職員講習會を東京市に開催す聽講者は全國地方廳、内務省東京、横濱、名古屋、大阪、下關、新潟、仙臺各土木出張所、鐵道省運輸局及朝鮮京畿、慶尚南北、黄海、平安の各道、臺灣總督府、關東廳等に奉職せるもの二名乃至十四名出席其の總數二百七名に及へり。講習科目は土木行政、道路行政、道路施工、土性論、道路材料、コンクリート工、高級鋪裝、簡易鋪裝、鐵筋コンクリート橋、鋼橋、交通整理の各般に渉れる外道路工事執行令の改正、隧道工事、滿洲、歐米各地

に於ける新事情等に及ひ更に內務省土木試驗所、東京府、埼玉縣に於ける新式築造にかかる道路、橋梁の見學を行ひ實地に就きて之を指導する所ありたり。

調査事業に關する件

道路交通は路面の完全なる狀態を維持するに非されは其の效果を全ふすること能はす從て路面の修理上適當なる方法を示すの極めて緊要なるを認め之か調査の爲內務技師岩澤忠恭、愛知縣土木部長川越篤、宮城縣土木部長土肥憲二郎、福岡縣土木部長坂本一平、長野縣土木部長岩崎雄治、東京市技師堀信一、元茨城縣技師白石幹彥諸氏に委員を囑託し路面、路肩及緣芝、道路の法、側溝、道路管理上の注意、砂利置場の整備、簡易鋪裝の維持、修繕法等の諸項に就き適切なる修理方法を調査完了し客年十一月之を公表して道路維持の爲に資する所ありたり。

道路資料並に印刷物頒布に關する件

前記調査の路面修理法の普及に依り道路維持の方法宜しきを得るは、道路交通上最も切望する所なるを以て、之を「修路工夫必携」と題して刊行したるに各地よりの需用甚だ多く年度內に於て七千八百八十四部を頒布し尋て「道路の設計工法並に計畫に關する事項」を「道路資料」第二輯として刊行九百餘部を頒布し又道路職員講習會の講演速記を整理刊行して壹千餘部を頒布し以て道路の築造と其の維持管理との指針となしたり。

國際道路會議に代表派遣の件

客年九月獨逸「ミュンヘン」市に於て開催の第七回國際道路會議の附議事項に屬する「セメント」系鋪裝、瀝青材料、街路又は地方道路の路面、交通安全の確保、車輛と路面關係及交通車輛等に關する諸項は其の調査を了して國際道路會議事務局に提出し尙其の趣旨の徹底を期する爲東京府技師宮崎正夫氏を本會代表に囑託し同氏は九月三日より十九日閉會に至るまで同會議に參列本會調査に關して說明するところありたり。其の狀況は「道路の改良」に揭載したる處の如し。

道路費に關し政府に建議の件

昭和十年度國庫歲計豫算を編成せらるるに方り非常時巨額の國帑を要するが爲め道路に關する經費は殆ど之を削除せらるへしとの噂高かりしを以て本會は客年十一月六日理事會を開き道路費査定に關し政府に建議の件を決議し山田常務理事は建議書を携へ內閣總理大臣及內務大臣を歷訪して之を提出し橋本副會長亦大藏大臣を訪ひて同じく建議書を提出し道路國策に對する本會の趣旨を演說し之が經費豫算に就き深甚の注意を求むる所あり幸に道路豫算壹千八百萬圓を維持するを得たるは本會趣旨の容認せられたるを信ずるのもなり。

交通網調査の結果に付政府に建議の件

我邦の交通機關は海陸勿論航空事業に至るまで近時著しく發達せるも其の連絡統制の法を講じ之をして克く時代の進步に伴はしむるは最も緊要の事なるを以て本會は之等調査の爲帝國鐵道協會、港灣協會、日本交通協會と共に調査研究を爲すこと一年餘曩に成案を得たるを以て客年十一月一日陸上交通機關の選定、交通法規の改廢、主管官廳の連絡協調、航空事業根本策の確立等に關し相共に政府に建議し又欝關雜誌に公表する所ありたり。

東海道視察旅行に關する件

東海道中改良箇所に於ける設計及工法を視察し未改良箇所に於ける改良計畫を研究し兼て自動車走行能力の試驗をなす目的を以て東、西兩組に分ち視察班發程の準備中偶々九月二十一日京阪地方を襲へる颱風の悽慘を極め沿道亦其の善後處置に寧日なく爲に右計畫實施の中止をなすの止むへからさりしは寔に遺憾とする所なり。

雜誌發行に關する件

機關雜誌「道路の改良」は其の發行部數に於て著しき增減を示さずと雖も特に發行期日を愆まらざることに留意し掲載事項は道路關係者の所期に辜負せざらんことに努め以て雜誌發行の本旨に副はんことを期したり。

會員の狀況に關する件

本年三年末現在會員數は前年に比し三十八名を增加し贊助員は六十六名を減じたり。今後益々本會趣旨の普及に努

め以て會務の進展を期せんとす。

◎土木地方債許可概要

許可月日	起債額	起債目的	道府縣	起債團體
六月六日	六三七、四〇〇	災害復舊土木費	京都府	——
同	一三、〇〇〇	都市計畫街路事業費	埼玉縣	浦和市
同	八五、〇〇〇	都市計畫街路擴築事業費	山形縣	山形市
六月八日	九五、二〇〇	道路橋梁改修下水道棧橋改修費	福岡縣	小倉市
六月十一日	一、三六六、五〇〇	災害復舊土木費	富山縣	——
六月十四日	九八、〇〇〇	道路改良費	大分縣	別府市

◎萬國道路會議々題決定

第八回萬國道路會議の議題は去七月一日二日の兩日佛國パリーに於て開催したる委員會で左の通決定したる內

一、道路構造ニ關スルモノ　三件

一、道路交通、道路行政、道路經濟ニ關スルモノ　各一件

尙同委員會は日本內務省土木局長に道路常置委員を依囑することをも決したりと。

◎神奈川縣の道路愛護共進會

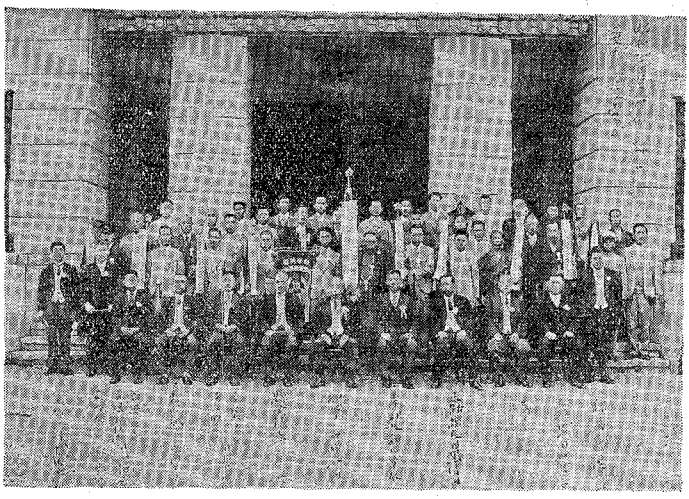
神奈川縣に於ける昭和九年度道路愛護共進會は去る六月二十二日同縣縣會議室に於て擧行せられ受賞團體代表五十五名を先頭に共進會審査委員、來賓等列席午前十時目黑道路課長開會の辭に初まり和田土木部長の審査報告に尋で功勞旗、功勞旗授章一、二、三、四等の順序を以て石田知事より賞狀優勝旗を授與せられ引續き石田知事の式辭、來賓道路改良會常任幹事都筑通督氏の會長祝辭代讀縣會議長石川要氏の祝辭、受賞團體總代高座郡座間村村長稻垣許四郎氏の答辭ありて午前十一時德田道路主事閉會の辭を述べ靜肅裡に終了せり、同縣の道路愛護事業は屢報の如く御下賜金拜戴記念事業として昭和四年度擧行せられて以來每年引續き開催本年は其の第六回目にして年を重ぬる每に堅實味を加へつつあり今本期成績の概況を擧ぐれば、參加團體數三百六十九其の人員六萬二千百七十六人國、府縣道擔當延長四十九萬七千二百二十三米、市道、町村道擔當延長百十八萬七千百四十六米此の總面積五百三十四萬四千百三十三

平方米、作業に從事したる延人員二十一萬七千四百十一人にして道路の維持保全上尠からざる貢獻を爲せり尙同縣に於ては愛護事業と密接の關係を有する、道路監守（修路工夫）の作業能率增進を計る目的を以て昭和十年度より之が作業成績審査會を設けて優秀者表彰の計畫あり、實施の曉には彼此相俟つて道路修理保全上一層の効果を齎すものと期待さる、因みに本年度受賞團體の重なるものを擧ぐれば左の如し。

功勞旗　高座郡澁谷村道路愛護會

同　加授章　足柄下郡片浦村少年赤十字團、同小學校道路愛護團、都筑郡柿生村、岡上村

一等賞　縣優勝旗、副賞金壹百圓　高座郡座間村



二等賞　地方優勝旗　副賞金五拾圓　都筑郡柿生村、岡上村（組合村）、鎌倉郡村岡村道路愛護會、三浦郡葉山町消防第一部、青年團一色分團、在鄕軍人分團第一班、中郡岡崎村道路愛護會、足柄下郡仙石原少年赤十字團、女子青年團、愛甲郡愛川村青年團、足柄上郡金田村道路愛護會、津久井郡川尻村青年團横濱市磯子區峯町更新會

三等賞　銀カップ　副賞金拾五圓　橘樹郡稻田町青年團、都筑郡新田村吉田第一區戸主會、同郡田奈村下長津田道路愛護會、高座郡澁谷村道路愛護會、鎌倉郡大正村男女青年團道路愛護會、三浦郡浦賀町大津保込戸主會、足柄上郡中井村道路愛護會、中郡豐田村道路愛護會、高座郡茅ケ崎町青年團室田支部、

中郡神田村道路愛護會、中郡伊勢原町青年團板戸支部、足柄下郡片浦村少年赤十字團、同小田原町第一少年赤十字團、高座郡有馬村青年團、同郡田名村青年團及學校兒童自治會、愛甲郡中津村青年團、愛甲郡南毛利村青年團長谷支部、足柄上郡櫻井村道路愛護會、高座郡相原村青年、横濱市磯子區氷取澤町戸主會　四等以下略

祝　辭

道路愛護ノ事業ハ近時殆ト全國ヲ風靡シ之ヲ實施セサル府縣ノ稀ナルハ道路改良ノ見地ヨリスルモ洵ニ喜フヘキ現象ナリトス殊ニ神奈川縣ニ於テハ昭和四年斯業創始以降終始一貫名實相伴フノ好成績ヲ擧ケラレ内容愈々充實シ今ヤ縣下ニ有力ナル事業トシテ重キヲ爲セリ。

本日昭和九年度道路愛護共進會ヲ擧行セラルルニ際シ入賞ノ榮冠ヲ贏チ得ラレタル團體各位ハ今後益々斯業ノ向上普及ニ努メ以テ其ノ大成ヲ庶幾セラレムコトヲ。

一言所懷ヲ述テ祝辭トス

昭和十年六月二十二日　道路改良會長　水野錬太郎

故理事丹羽七郎氏の略歴

道路改良會理事前内務次官丹羽七郎氏は本年一月下旬病を得て鎌倉に靜養せられたるに六月下旬に至り尙加養の必要あり終に職を辭して心靜かに療養を加へられんことを欲し月の二十七日依願本官を免ぜられた、吾人は一日も早く全快を告げて健康を回復し其の才幹と人格力とを以て内政刷新の任に當られんことを待望したりしに七月七日溘焉として逝去された。氏は北海道の出身にて明治四十三年三月七日東北帝國大學農科大學を卒業し更に轉じて京都帝國大學法科大學政治科に入り大正三年七月十四日卒業し同年八月一日東京府屬となり初めて身を官界に入る、同五年四月十一日東京府理事官となり同七年一月十四日内務事務官に轉じ同年五月二十五日内務書記官となり土木局河港課長の職に充てらる、同十年二月二十八日同局港灣課長となられたが病の爲めに同年八月三十一日休職となる、病痾を養ふこと一ヶ年餘全快して同十一年十一月四日明治神宮造營局

書記官となり、同十二年八月二十一日內務事務官土木局庶務課長となる、同十三年七月二十三日土木局道路課長となり同年八月道路改良會庶務幹事を依囑せらる翌十四年一月二十一日內務事務官兼書記官となり港灣課に勤務することとなつて同年七月十三日歐米各國に出張を命ぜられ土木行政を見學し同十五年九月三十日歸朝す昭和二年五月九日復興局書記官を兼任す、同四年七月五日岩手縣知事に任ぜらる、道路改良會幹事を退く翌五年八月二十六日埼玉縣知事に轉じ翌六年四月十五日內務省土木局長に任ぜらる、道路改良會庶務理事を委囑せらる、同六年十二月十八日社會局長官に轉じ同九年七月十日內務次官となり後藤內相を援けて內務行政の刷新を策し地方長官の大更迭に參與して其の眼識を發揮したが一月下旬病の爲轉地療養するの已むを得ざることとなり六月二十八日終に退職せられた、前途有爲の身を以て齡五十一歲にて他界す惜しみても餘りあることである。

告別式は七月十一日青山齋場で盛大に行はれた。本會は理事會の決議を經て玉串料を供し且弔慰金を贈呈した。

寄贈圖書

京都府

一　甲戌暴風水害法

本書は昭和九年九月二十一日突如近畿地方に襲來し未曾有の慘害を蒙らしめた大颱風に關する京都府に於ける被害記錄で卷首に御救恤金下賜の御沙汰書(寫)をかゝげ知事の訓示を錄し當時の慘禍を想はせる新聞號外其他十二種の寫眞を挿入して暴風水害の概況から被害の狀況、救護の狀況警備警戒の狀況各團體の活動狀況復舊狀況等具さに之を蒐錄したもので一は聖恩の鴻大無邊なるを深く感銘し內外各地よりの同情を記念すると共に又一面に於ては之を後に傳へて將來の鑑戒に資せんとする編纂の目的を完ふしたる文獻である。

一鹿兒島縣維新前土木史

鹿兒島縣土木課

本書は土木學會に維新以前に於ける日本土木史編纂の爲め其資料の寄贈を需められたるを以て其資料を調査蒐集し

たるが其資料が悉皆日本土木史に登載せられざるを慮り鹿兒島縣郷土土木史として編纂刊行したるものである。

一　内務省東京土木出張所管内工事概要

内務省東京土木出張所

内務省土木出張所の所管區域内に於ける昭和九年末調査の河川改修及維持工事砂防工事國道改良工事の概要を記錄する文獻である附圖として三九葉の圖面を添付してゐる。

一　鎔接鋼橋

内務技師　工學士
東京帝國大學講師　青木楠男氏著

本誌上に不斷に寄稿せられたる著者の研究は世の賞讃を博せる所なるが今回「鎔接鋼橋」と題し其研究の結果を公刊せられた。著者が夙に鎔接技術の研究發達に沒頭せられたることは曩に鎔接研究會を創立し又鎔接協會の理事、日本學術振興會鎔接委員會幹事として活躍努力せらるゝことに徴して明かである。

今や鋲結法並に鑄工法の如きは過去の時代に屬し、世は鎔接時代に推移しつゝある、著者の烱眼は既に十年前茲に着目する所があつて爾來研鑽怠る所なく、更らに先人未解決の問題にまで其の研究の歩武を進めつゝある、此秋此著書は實に著者が數年間に蒐集せる資料の收獲と蘊蓄せる學識の結晶と觀らるべきものである。其の說述する所は先づ鎔接鋼構造物界の趨勢を說き次で鎔接々手及其内應力分布細部構造、鎔接の施工、鎔接部の檢査の諸項に涉りて計算、理論、實施工法に及ぼし橋梁技術者に取りては眞に最新最良の指針と謂ふも過賞の言にあらず、若夫れ鎔接作業に從事する者の肉體的及精神的方面に於ての注意事項卽ち鎔接工の責任觀念の有無と精神狀態の可否とが作業の結果に極めて重大なる影響を有することであつて決して優秀なる鎔接設備と拔群の技術のみが完全なる鎔接を齎らす所以でない事であると論ずるが如き又手働金屬電弧鎔接に關する利害得失及鎔接終了後に製作物に殘る熱歪み並に内應力に關する說述の如きに至りては啻に橋梁技術者にあらざる者にも頗る注意を喚起せしめらるゝ事項である、從つて本書が鋼工業界に裨益を與ふることの尠少ならざるは敢て贅言を費やすの要なきものである。（シビル社出版部出版定價金參圓）